

平成30年 9月 3日

学園関係者並びに

受験生・保護者の皆様へ

学校法人 日本大学第二学園

## 日本大学アメリカンフットボール部の反則タックルをめぐる問題 に対する本学園からのメッセージ

### 1. はじめに

学園関係者の皆様には、日頃より教育および経営の両面にわたり、格別のご理解とご支援をいただき厚くお礼申し上げます。皆様のご尽力をいただき学園も今秋には創立92周年を迎え、順調な歩みを進めております。

すでにご承知のとおり、本年の5月6日に日本大学アメリカンフットボール部（以下、日大アメフト部という）の選手が起こした反則タックルについて、当該選手が5月25日の記者会見において「反則タックルは監督、コーチの指示」との発言を契機に社会問題化し、マスコミ等で大きく取り上げられてきております。

このような状況の中で、本件と関係のない日本大学の学生、付属校の生徒にも大きな衝撃と多大な影響を与えました。このことは、日本大学の特別付属校である本学園関係者の皆様におかれましても連日連夜の報道に心を痛められ、心配の気持ちが積もる日々を送られたことと拝察いたします。とりわけ本校の在校生・保護者の皆様、本校に入学を目指されている受験生・保護者の皆様には、多大なご心配とご迷惑をお掛けしていることを心よりお詫び申し上げます。

### 2. 日大アメフト部に対する対応等

日大アメフト部の反則タックル問題を解決するにあたって、日本大学は独自に対処策を講じる一方、5月31日付で、大学とは利害関係を有しない弁護士7人からなる「日本大学アメリカンフットボール部における反則行為に係る第三者委員会（以下、第三者委員会という）」を設置しました。かかる第三者委員会の設置目的は、①反則タックルに係る事実確認、真相および原因究明、②大学によるアメフト部に対するガバナンス体制の検証、③再発防止のための対策と提案、の3点が挙げられています。

学校法人日本大学の委託を受けた第三者委員会は、6月29日付で本文22頁からなる「中間報告書」を、7月30日付で本文39頁からなる「最終報告書」をそれぞれ公表しました。

なお、これらの報告書に記載された事後対応の問題点および競技部へのガバナンス強化に対する意見や再発防止策に関する提言などを真摯に受け止める旨を表明した「第三者委員会の中間報告書について」(6月29日)とともに、8月3日には田中英壽理事長名で「学生ファーストの理念に立ち返って(日本大学理事長 田中英壽)」と、大塚吉兵衛学長名で「今後の改革に向けて(日本大学学長 大塚吉兵衛)」と題する公式見解を、それぞれ日本大学のホームページで開示しています。

### **3. 日本大学と本学園との関係**

本学園は1927年(昭和2年)4月に、日本大学第二番目の付属校(旧制 日本大学第二中学校)として開校しました。その後、1947年(昭和22年)の学制改革により現在の日本大学第二中学校と日本大学第二高等学校となりました。

2018年(平成30年)8月31日現在、日本大学には26校の付属校があります。この内訳は、戦後に創立された学校を含め、学校法人日本大学が直接経営する正付属校11校、日本大学とは独立した学校法人によって経営されている準付属校15校から構成されています。

後者の準付属校は、日本大学と「付属契約」を締結し、主として日本大学への推薦入学制度において正付属校と同等の優遇措置を受けております。準付属校の中には、日大一中・一高、日大二中・二高、日大三中・三高のように、戦前より日本大学の付属校であったという強いつながりを持っている学校が含まれており、戦後の諸事情により日本大学から経営面で分離・独立した本校を含むこれらの三つの付属校を「特別付属校」と称しています。

### **4. 本学園の教育と経営の基本方針**

いうまでもなく学校法人は、教育事業を行う組織であります。したがって、学園経営の要諦は、かかる教育事業をいかに充実・強化することにあるといえます。

学園理事会および評議員会は、学園経営において、本学園で勤務している教職員の意見を極力反映させながら遂行しております。かかる学園経営の責任者は、学校法人の代表者である理事長です。

本学園の経営に関する基本方針は、①安心かつ快適な学校生活を送ることのできる環境・施設整備、②教育効果・実績を上げることのできる環境整備、③優秀な教員採用と待遇改善の三つに要約されます。理事会の重要な使命は、これらの目標を達成するために、保護者からの学費や東京都からの補助金などといった限られた財源を有効に配分し活用することにあります。

次に教育については、学校長を責任者として、全教職員が一丸となって本学園の掲げる教育目標を要約した校訓三則『信頼敬愛 自主協同 熱誠努力』に基づいて鋭意努力をしてきております。

本学園では、この教育目標を踏まえて、「確かな学力」と「たくましく生きる力」を身に付け、自らの力で自らの進路を決めることのできる生徒、心身ともに健康な生徒の育成を目指し、教育活動や部活動を通して「頭・心・体」を鍛錬しています。

## 5. 学園関係者および受験生・保護者の皆様へ

今般の日大アメフト部による反則タックル問題は、対応の遅れなどの様々な要素が加わり社会問題にまで発展し、結果として日本大学の信頼の失墜を招く事態となってしまったことは誠に残念であります。

しかしながら、日本大学には特色ある多くの学部や学科が設置されております。さらに、多くの熱心で優秀な指導者もおられます。その中には、本学園および日本大学の卒業生である消化器外科学の分野で世界的権威の一人である日本大学医学部長・高山忠利氏や「ドクターX」・「西郷どん」の脚本家である中園ミホ氏などの諸先輩が活躍されています。

日本大学の特別付属校である本校においては、これまでどおりに『生徒ファースト』の立場から『生徒に寄り添う教育』をさらに実践して参ります。同時に、学業や部活動に対しても文武両道の精神を踏まえ、熱意と情熱をもって指導に当たっていきます。

受験生の皆さん、一生懸命勉強して本校に入学して下さい。在校生および教職員が皆さんの入学を待っております。

受験生の保護者の皆様には、世間で騒がれている日本大学の付属校にご子女を受験、入学させることに躊躇があると存じますが、秋に実施されます学校説明会にご参加いただき、本校の実像をご見聞された上で、ご判断いただきたくお願い申し上げます。